

(2) 調査対象とした活動目的

外国人旅行者調査も、前節までの着地側調査と同様に、上野・浅草両地区で旅行者(回答者)が実際にとった行動を把握した。具体的には、表 2-35 に示した各活動目的別に実施の有無を質問している。

表 2-35 着地側来街者調査で把握した活動

職場外の業務・商用・出張
食事・喫茶 買物
芸術鑑賞【上野のみ】 動物園見学【上野のみ】 寺社参拝【浅草のみ】 大衆演劇・落語の鑑賞【浅草のみ】 花やしき来園【浅草のみ】
散歩・散策 その他私用(通院・塾・習い事)

(3) 活動目的別実施率

外国人旅行者が上野・浅草地区で実際にとった行動について、表 2-35 に示した活動目的別に実施率を示した(図 2-50)。なお、両地区で共通している活動目的は合算集計した結果、散歩・散策(83%)、寺社への参拝(75%)、食事・喫茶(74%)、芸術鑑賞(61%)の順で、日本人宿泊客の活動実施率(図 2-51)と比較すると外国人の方が寺社への参拝をする割合が高い。

図 2-50 外国人旅行者の活動実施率

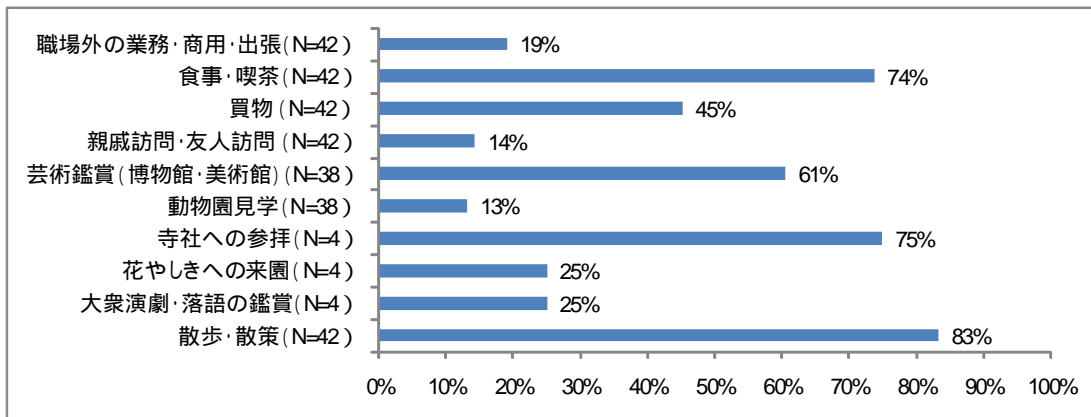
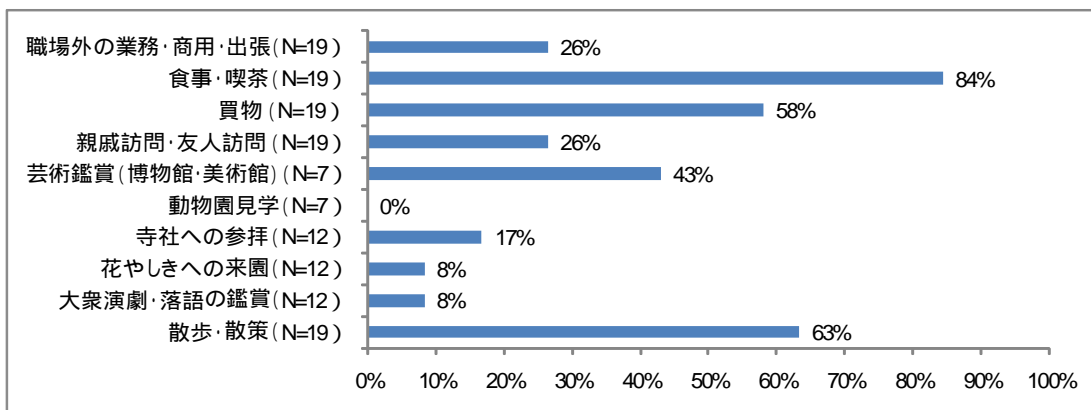


図 2-51 日本人宿泊客の活動実施率



(4)台東区滞在前後の国内訪問先

図 2-52 は、台東区滞在以前の訪問先を集計したものである。台東区以外では銀座・丸の内などが多い。「その他」には、成田（2名）、北海道・箱根（各1名）を含む。

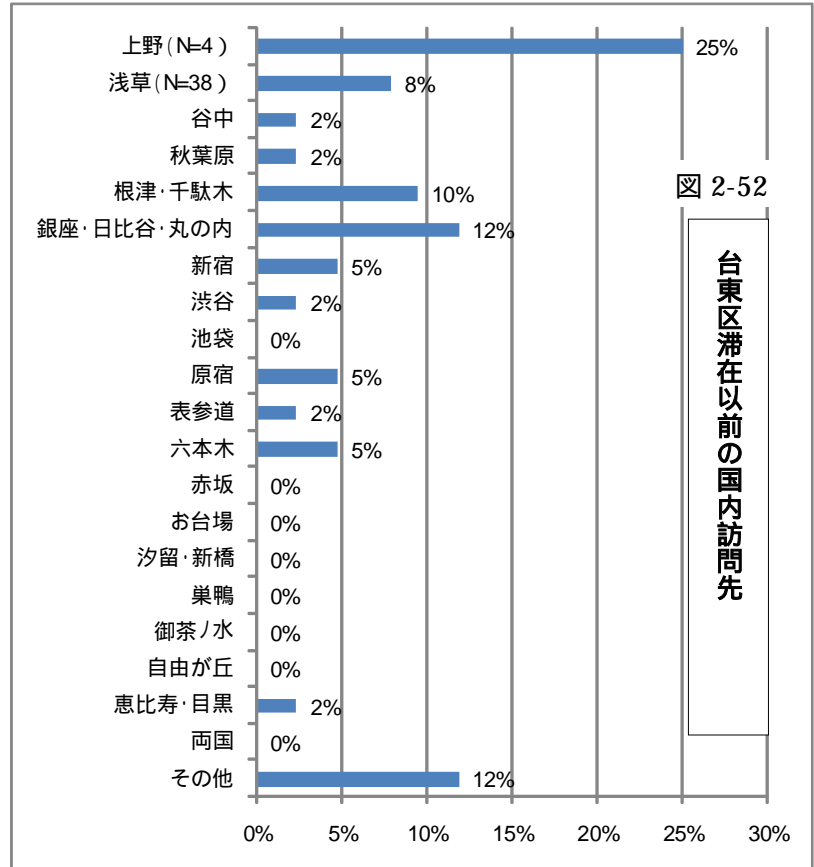
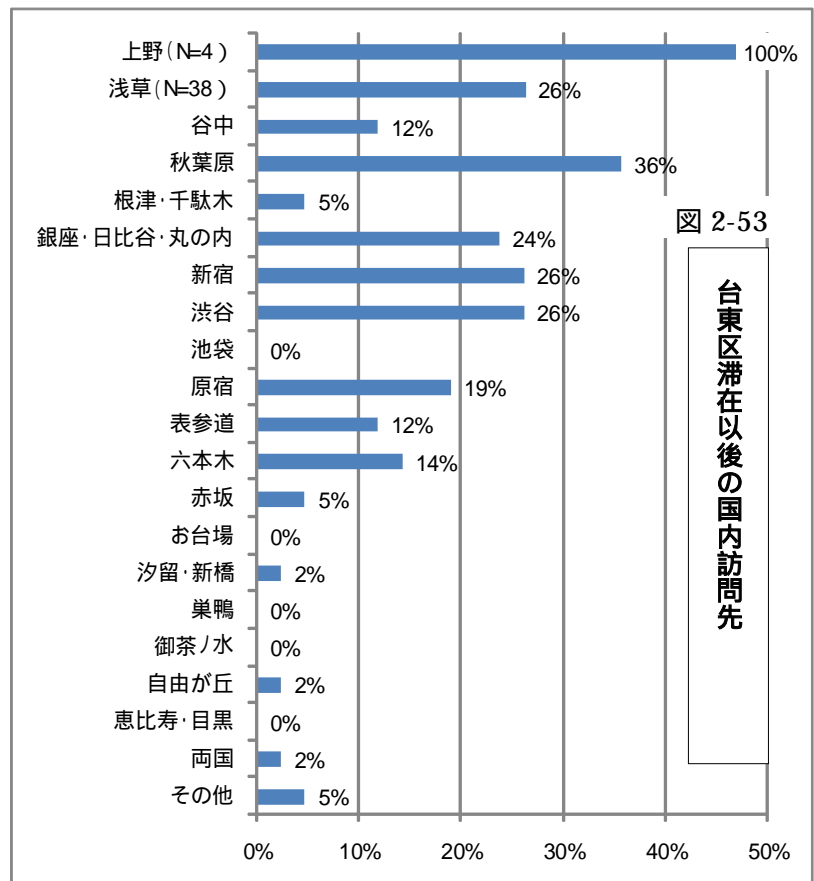


図 2-53 は、台東区滞在以後の訪問先を集計したものである。外国人旅行者の場合、一般的に宿泊日数が長いので、訪問先の「予定」も含むと考える。

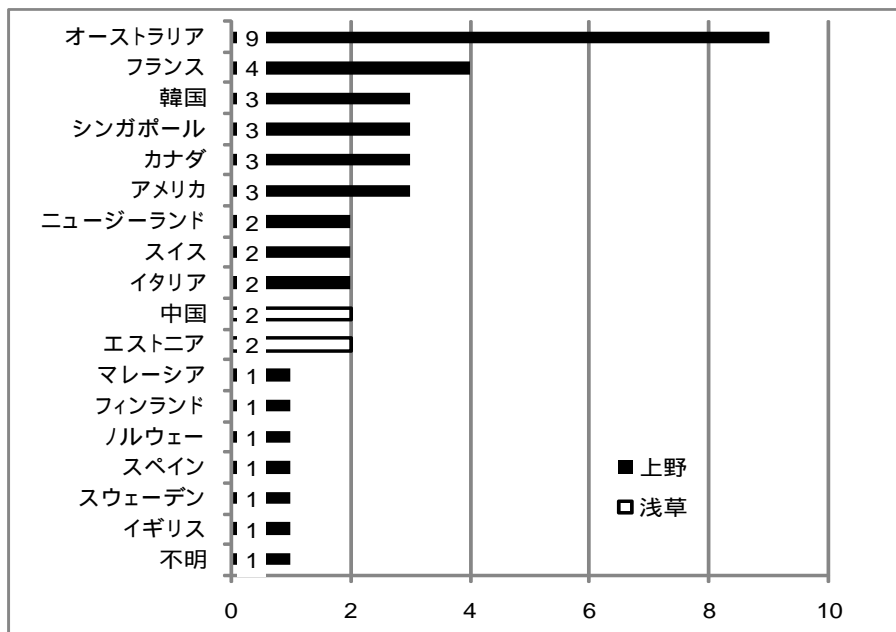
台東区以外では、秋葉原が最も多く、次いで、新宿、渋谷、銀座・丸の内などが多い。



(5)外国人宿泊者の居住国

外国人旅行者（宿泊者）の居住国を整理したものが図 2-54 である。今回の調査では、オーストラリアが 9 人と最も多くなった。

図 2-54 外国人宿泊者の居住国（人数）



6-2.外国人旅行者・日本人宿泊者の観光割合

(1)観光目的・業務目的の旅行

外国人旅行者及び日本人宿泊者（上野・浅草地区の合算）の旅行目的が「観光目的」若しくは「業務目的」であるかを集計した。（表 2-36）

外国人旅行者（回答者）の 78.6%が「観光目的」の来訪である（つまり、主観的な観光意図を持っている）と回答している一方、日本人宿泊者（回答者）では、47.4%に止まっている。一方、（観光目的と兼ねる「兼観光」も含めて）「業務目的」の旅行であると回答したのは、外国人・日本人ともに 2～3 割程度であった。

表 2-36 観光目的（主観的な観光意図）・業務目的の旅行の実施率

外国人旅行者		上野	浅草	合計	割合
観光目的	業務目的	4	1	5	11.9%
	×	26	2	28	66.7%
×		2	1	3	7.1%
×	×	6	0	6	14.3%

日本人宿泊者		上野	浅草	合計	割合
観光目的	業務目的	0	0	0	0.0%
	×	4	5	9	47.4%
×		0	5	5	26.3%
×	×	3	2	5	26.3%

凡例

該当 × 非該当

観光目的：「観光目的の来訪」と回答したか否か

業務目的：出張等の業務を実施したか否か

(2)観光目的として捉える行動の実施率

観光目的として捉える行動として、先に述べた日本人の平常時における年間観光客数の推計と同様、本調査では以下の通り定義した。

文化観光施設への入場をした来訪者

「楽しみのための行動」(自分で「行きたいと思った店」で「買いたい(飲食したい)もの」を購入した)を実施した来訪者

浅草地区に限り、寺社参拝を行った来訪者

散歩・散策

上記行動の同時又は並行実施

また、下記の活動は観光客推計値に参入していない。

職場への出勤・学校への通学

職場外の業務・商用・出張

その他私用

外国人旅行者(台東区宿泊者)が「観光」と捉える行動を実施している割合を以下のように推計する。

上野・浅草地区に宿泊する外国人旅行者が「観光」と捉える行動を実施している割合；78.6%

6-3. プロセス4：年間外国人観光客数の推計

(1)推計

年間宿泊観光客数の推計フローを図2-55に示す。

Step1として、前節で示した宿泊施設へのアンケート調査結果を基に、外国人の年間延べ宿泊数を集計・推計する。

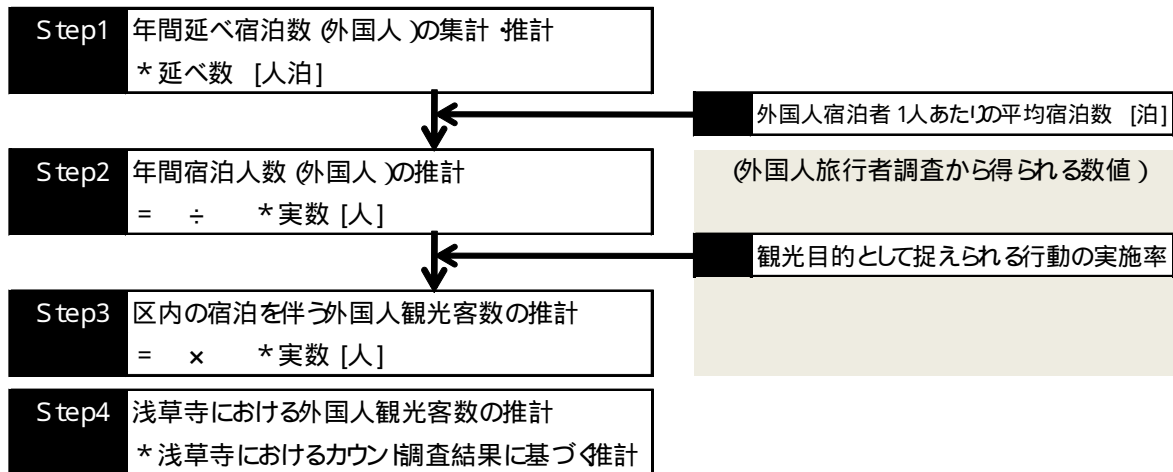
次に、外国人宿泊者1人あたりの平均宿泊日数を求めるわけだが、「全国宿泊旅行統計調査報告(平成20年10~12月)」(国土交通省・観光庁)の結果から、台東区は2.0~2.5泊/人の範囲であることを明らかにしている⁹。その上で、Step1で得た延べ宿泊数を上記の平均宿泊数で割ることで年間宿泊人数の実数が推計できる(Step2)。

次に、外国人旅行者調査の結果を基に、観光目的として捉える行動の実施率(78.6%；先述の通り)を乗じて、区内の宿泊を伴う年間外国人観光客数を推計する(Step3)。

また、台東区外に宿泊している外国人観光客を考慮する必要があることから、浅草寺で実施した外国人カウント調査結果に基づく、外国人観光客数の推計を別途実施する。

⁹ 「全国宿泊旅行統計調査報告(平成20年10~12月)」(国土交通省・観光庁)は下記URLで閲覧可能(平成21年3月末日現在)。http://www.mlit.go.jp/common/000036981.pdf
上記報告書の「図7-2 市区町村別外国人一人当たり平均宿泊数」によるデータを用いた。

図 2-55 外国人観光客数の推計フロー



(2) 区内の宿泊を伴う年間外国人観光客数の推計

外国人の年間延べ宿泊数の推計を実施する。表 2-30 は、上野・浅草地区の観光施設を対象に調査した年間外国人宿泊者数を示したものである。両地区の合計は、213,764[人泊]であり、回収率は 68.9%であることから、外国人の年間延べ宿泊数は、

$$213,764[\text{人泊}] \div 68.9\% = 310,253[\text{人泊}]$$

次に、外国人の年間宿泊人数（実数）を推計する。外国人宿泊者 1 人あたりの平均宿泊日数については、「全国宿泊旅行統計調査報告（平成 20 年 10～12 月）」（国土交通省・観光庁）の結果から、台東区は 2.0～2.5 泊/人の範囲であることが明らかになっていることから、先の延べ宿泊数から、平均宿泊日数を割ることによって求める。

$$\text{最大) } 310,253[\text{人泊}] \div 2.0 = 155,127[\text{人}]$$

$$\text{最小) } 310,253[\text{人泊}] \div 2.5 = 124,101[\text{人}]$$

最後に、観光と捉える行動を行った外国人旅行者の割合(78.6%；表 2-36 および先述の通り)を上記の年間宿泊人数（実数）に乗じることで、区内の宿泊を伴う年間外国人観光客数の推計ができる。

区内の宿泊を伴う年間外国人観光客数；
 最大) 155,127 人 × 0.786 = 121,929 人
 最小) 124,101 人 × 0.786 = 97,546 人

(3) 浅草寺における外国人観光客数の推計

浅草寺を対象に実施したカウント調査結果(平成 21 年 2 月 13 日(金)の 9~17 時に実施)より、浅草寺における外国人割合は 15.2%と推計し統計上は観光客の内数とする。

調査概要

外国人の通行量をインタビュー方式でカウント調査

* 調査場所：浅草寺、宝蔵門前（参照：添付地図）

* 調査日：平成 21 年 2 月 13 日（金）曇り、日中気温 17

* 調査時間：9 時から 17 時

* 調査場所：本堂から雷門方向

出発国「識別方法」

* 中国人留学生、韓国人留学生に目視による識別

* 目視に加え、対象者に直接聞き取りを行った

調査結果

図 浅草寺境内における外国人来訪者数

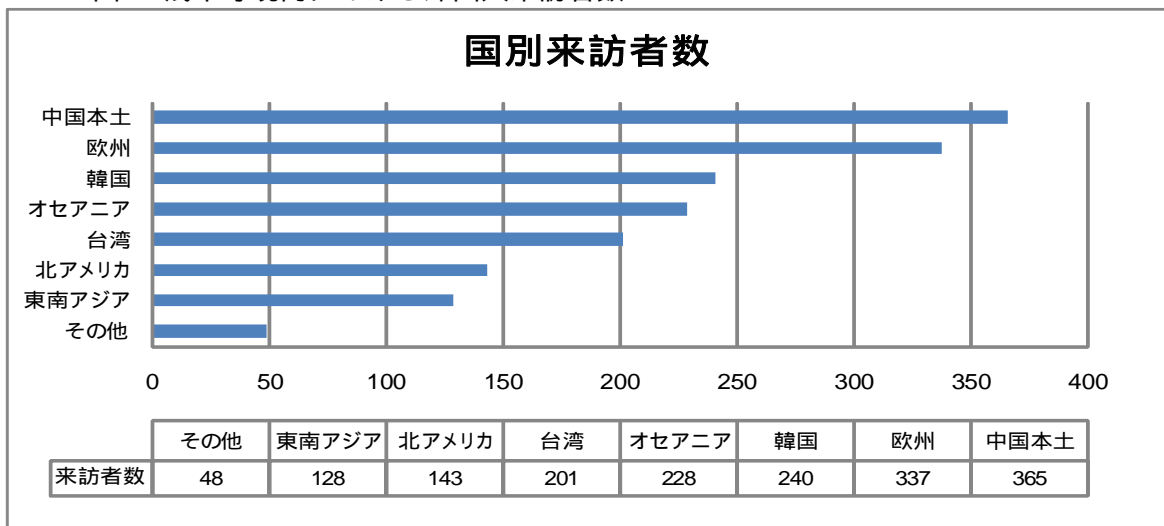
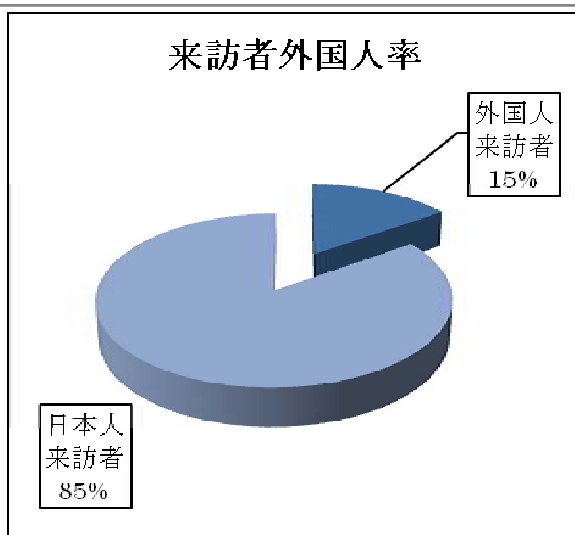


図 外国人訪問比率

外国人来訪者	1690
日本人来訪者	9432
合計	11122

来訪者外国人率



一方で、浅草寺の入場者数は、前節の「歩行者交通量」に基づく分析により算出している。したがって、浅草寺における年間外国人観光客数を次の通り推計する。

「歩行者交通量」を基に推計した、浅草寺に年間外国人観光客数は、以下のように推計する。
 $12,092,635$ 人(浅草寺方面の年間歩行者交通量) \div 0.962 (浅草地区の総入込み数に占める浅草寺の入場者数割合) \times 0.152 (外国人割合)
 = $1,910,687$ 人

7. 谷中・浅草橋地区の推計値

7-1. 谷中地区、来訪者年間入り込数推計

上野浅草と同日に谷中銀座商店街入り口(谷中だんだん階段下)で、来訪者交通量調査を実施した。調査時間帯を9時から17時に設定することで、地元客と来訪者の重複カウントを避け調査をした。

なお、イベントへの来訪者数は上野地区のカウントに含め、よみせ通り通行量は文京区との境界線上に位置するため本調査の推計値には含めていない。

表 7-1：谷中地区通行量調査からの推計

谷中銀座入り口(夕焼けだんだん下)：9時から17時				
季節	調査日	交通量	平日数	推計
春季(3-5月)	平日(3/6)	2,556	61	155,916
夏期(6-8月)	平日(6/20)	2,806	64	179,584
秋季(9-11月)	平日(9/12)	2,659	60	159,540
冬季(12-2月)	平日(12/12)	3,646	63	229,698
			小計	724,738
季節	調査日	交通量	土日祝祭日数	推計
春季(3-5月)	休日(3/23)	8,473	31	262,663
夏期(6-8月)	休日(6/22)	2,973	28	83,244
秋季(9-11月)	休日(9/15)	6,830	31	211,730
冬季(12-2月)	休日(12/14)	3,246	28	90,888
			小計	648,525
			合計 +	1,373,263
推 計				
上野地区 区外来訪者比率(98.2%)				1,348,544
谷中地区へ区外からの年間来訪者総数				1,348,544

7-2 . 浅草橋地区、来訪者年間入り込数推計

上野浅草と同日に浅草橋駅東口浅草方面路上で、来訪者交通量調査を実施した。この地点での1日の計測結果は図8の通りである。

図 7-1 平日の時間帯別交通量

調査地点：JR浅草橋駅東口				調査日：平成20年3月6日(木)
	調査方向			調査方向案内図
	浅草	-	合計	
9:00 ~ 10:00	1899	-	1899	
10:00 ~ 11:00	1173	-	1173	
11:00 ~ 12:00	1600	-	1600	
12:00 ~ 13:00	1736	-	1736	
13:00 ~ 14:00	1834	-	1834	
14:00 ~ 15:00	1780	-	1780	
15:00 ~ 16:00	1542	-	1542	
16:00 ~ 17:00	1769	-	1769	
合計	13333	-	13333	

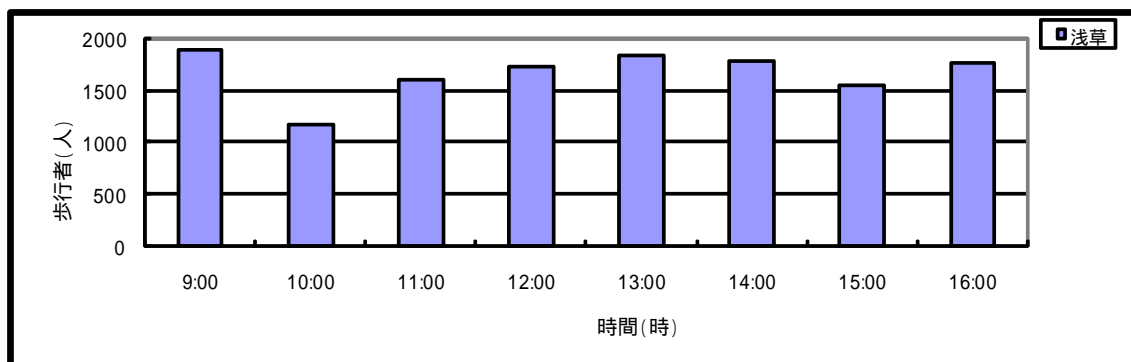
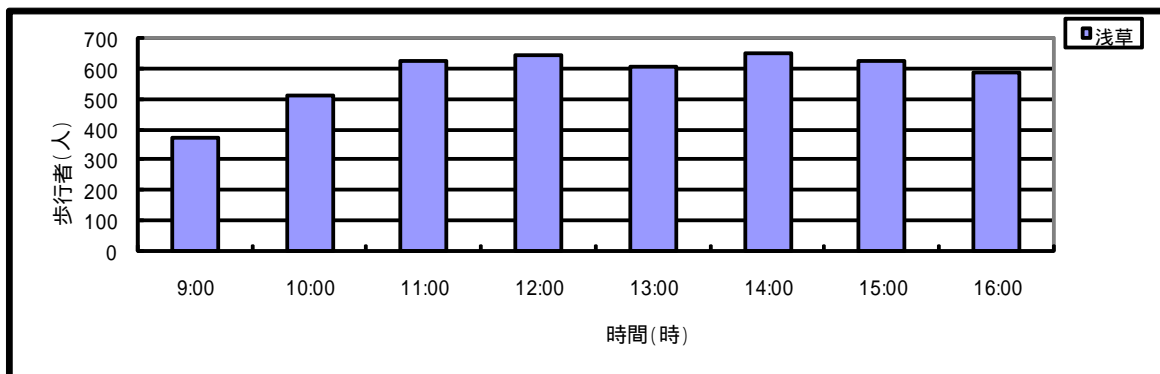


図 7-2 休日の時間帯別交通量

調査地点：JR浅草橋駅東口				調査日：平成20年3月23日(日)
	調査方向			調査方向案内図
	浅草	-	合計	
9:00 ~ 10:00	369	-	369	
10:00 ~ 11:00	510	-	510	
11:00 ~ 12:00	623	-	623	
12:00 ~ 13:00	642	-	642	
13:00 ~ 14:00	605	-	605	
14:00 ~ 15:00	648	-	648	
15:00 ~ 16:00	625	-	625	
16:00 ~ 17:00	588	-	588	
合計	4610	-	4610	



上記の時間毎の計測値は平日の 9-10 時、16-17 時に他の時間帯と比較して流量が増加している。この地区の特性からこの部分は区内への通学、通勤が大半を占めると判断し、交通量の集計は 10-16 時とした(図 8-3)。

図 7-3 浅草橋東口年間通行量 (10 - 16 時)

JR 浅草橋駅付近(駅 浅草寺方向) 9時から17時				
季節	調査日	交通量	平日数	推計
春季(3-5月)	平日(3/6)	9,665	61	589,565
夏期(6-8月)	平日(6/20)	8,616	64	551,424
秋季(9-11月)	平日(9/12)	7,440	60	446,400
冬季(12-2月)	平日(12/12)	11,451	63	721,413
			小計	2,308,802
季節	調査日	交通量	土日祝祭日数	推計
春季(3-5月)	休日(3/23)	3,653	31	113,243
夏期(6-8月)	休日(6/22)	3,192	28	89,376
秋季(9-11月)	休日(9/15)	3,298	31	102,238
冬季(12-2月)	休日(12/14)	2,981	28	83,468
			小計	388,325
			合計(推計)	2,697,127

前出の交通センサスから浅草橋の定期券乗客率は 70.6%であり、推計値に(100% - 70.6%)を乗じ区外からの来訪者推計値とした。

$$2,697,127 \times 0.299 = \mathbf{806,440}$$

8. 上野・浅草地区における年間観光客数の推計結果（まとめ）

表 2-39 上野・浅草地区における年間観光客数の推計結果

日 本 人	年間入り込み数（推計）	
	上野地区	浅草地区
(1) 平常時における年間観光客数		
A : 観光施設の年間入場者数に基づく	約 1,146.9 万人	
B : 鉄道駅における年間降客数に基づく	約 1,467.5 万人	約 1,072.6 万人
C : 歩行者交通量に基づく	約 1,057.3 万人	約 1,158.5 万人
(2) イベント入場者数（主催者発表を基準）	約 80.4 万人	約 883.4 万人
(3) 宿泊観光客数（日本人）	約 10 万人	約 21 万人
外 国 人	年間入り込み数（推計）	
	上野地区	浅草地区
(4 A) 宿泊を伴う外国人観光客	最小) 約 10 万人 最大) 約 12 万人	
(4 B) 平常時の外国人観光客数（内数）	（約 191 万人）	
地 区 別 年 間 観 光 客 数		
	(1)にBの鉄道駅基準の推計 値を採用した場合	(1)にCの歩行者交通量基準の 推計値を採用した場合
(1) 上野地区（平常時）	約 1,467.5 万人	約 1,057.3 万人
(1) 浅草地区（平常時）	約 1,072.6 万人	約 1,158.5 万人
(2) 上野地区（イベント時）	約 80.4 万人	約 80.4 万人
(2) 浅草地区（イベント時）	約 883.4 万人	約 883.4 万人
(3) 上野地区（邦人宿泊）	約 10 万人	約 10 万人
(3) 浅草地区（邦人宿泊）	約 21 万人	約 21 万人
(4) 外国人宿泊数	約 12 万人	約 12 万人
(4) 平常時外国人数（内数）	（約 191 万人）	（約 191 万人）
合 計	約 3,546.9 万人	約 3,222.6 万人

以上の推計結果に関し、以下の集計上の誤差が潜在する。

(1) 外国人観光客数：

平常時の外国人観光客数は内数で浅草地区の平常時観光客数に含まれている。なお、「区内の宿泊を伴う外国人観光客」が全て浅草寺を訪れる場合は重複カウントとなる。

(2) 日本人の宿泊者数：

「観光目的」の宿泊であるかについて、平成 18 年度の「台東区観光客マーケット調査」結果を使用している。そのため、上野・浅草地区の合計で、- 31 万人（観光目的の宿泊客が 0% の場合）から + 60 万人（同じく 100% の場合）の誤差を含む。

(3) イベント入場者数：

他の推計結果と「二重カウント」になる可能性がある。また、入場者数は主催者発表数値である。

9.まとめ（到着地側）

9-1. 観光客数・観光消費額の推計結果の考察

本調査結果より、推計した観光客数及び観光消費額は以下の通りである。

なお、便宜上、平成 16・18 年度調査推計結果と平成 20 年度調査推計結果を並列に作表したが、今回の調査と前 2 回の調査は推計基準が異なる。

9-2 . 平成 20 年度観光マーケティング（全区）まとめ

表 9-2：台東区の観光客推計表

		単位：万人	
		平成20年度	地区計
上野	上野地区：平常時の観光客入込み数	1,057.3	1147.7万人
	上野地区：イベント来訪者	80.4	
	上野地区：日本人宿泊観光客	10.0	
アメ横	アメ横（区外来訪者、9時-17時の推計）	496.3	496.3万人
浅草	浅草地区：平常時の観光客入込み数	1,158.5	2062.8万人
	浅草地区：イベント来訪者	883.4	
	浅草地区：日本人宿泊観光客	21.0	
谷中	谷中地区：区外からの来訪者数	134.8	134.8万人
浅草橋	浅草橋地区：区外からの来訪者数	80.7	80.7万人
全区	全区：外国人宿泊観光客	12.0	
	全区：外国人来訪者（内数）	(191.0)	
総合計		3,934.4	

9-3. 平成 18 年度調査との比較表

平成 20 年度 年間観光客入込み推計（外国人観光客を含む）

	観光客数	日帰り観光客数	宿泊客数
観光客総数	約 3,934.4 万人	約 3,891.4 万人	約 43 万人

観光客数比較表

年間観光客数	平成 16 年度	平成 18 年度	平成 20 年	差引き
観光のみ （狭義）	約 2,286 万人	約 2,325 万人		
観光と買い物 （広義）	約 3,306 万人	約 3,402 万人	約 3,934.4 万人	約 532.4 万増

観光客数比較表

	単位: 万人		
地区別観光客数	平成18年度	平成20年度	差異
上野地区: 観光・買い物・外国人・宿泊者を含む	1,169.0	1,644.0	475.0
浅草地区: 観光・買い物・外国人・宿泊者を含む	1,967.0	2,062.9	95.9
谷中地区: 区外来訪者、日暮里方向から	216.0	134.8	-81.2
浅草橋地区: 観光・買い物・外国人・宿泊者を含む	49.0	80.7	31.7
全区(宿泊外国人観光客数)		12.0	
合計	3,402.0	3,934.4	532.4

なお、各表における推計値は端数整理（四捨五入）してあり、合計額と合わないことがある。

9-4. 前回調査の来訪目的別の（定義）比較

前回の調査では、回答者の主観的判断による来訪目的を捉え、今回は回答者の行動を基準とした来訪目的を捉えたが、この視点変更が来訪目的の係数などに与えた影響を比較する。下記表の表 9-4-A、9-4-B は両地区来訪者がとった行動の割合であり、複数回答の為単一回答に構成比を持って換算した物である。また 9-4-C、9-4-D は「行動ベース」の判断を加えることにより各項目の割合の変化を表にした。また、表 9-4-E には行動基準で来訪目的を判断した場合の割合の変化をまとめた。

結果は観光と買い物の割合は増加し、その他も含む他の項目が減少した。いずれの地区もその他の割合が減り、来訪目的として観光・買い物が増加した。増加分が今回の調査で精査した部分であり、来訪者の意識の違いが表れている。

表 9-4- A

上野地区: 今回の項目別実行率、
なお、複数回答があるので比率配分した。

前回の区分	今回の区分	主観 目的	実行 項目	100% 換算
仕事・出張	出勤・通学	1.8%	3.6%	1.4%
	職場外業務	1.7%	4.5%	1.7%
買い物	買い物	2.6%	34.4%	13.2%
友人・親族	親戚・友人	0.5%	2.4%	0.9%
観光	芸術鑑賞	70.0%	80.2%	30.9%
	動物園見学	4.7%	8.6%	3.3%
	散歩・散策	3.9%	53.0%	20.4%
	観光	0.9%		
	食事・喫茶	2.4%	63.7%	24.5%
その他	その他私用	0.6%	2.9%	1.1%
その他	その他	3.8%	6.6%	2.5%
無回答	無回答	7.4%		

表 9-4- B

浅草地区: 今回の項目別実行率、
なお、複数回答があるので比率配分した。

前回の区分	今回の区分	主観 目的	実行 項目	100% 換算
仕事・出張	出勤・通学	0.8%	1.6%	0.4%
	職場外業務	0.8%	4.9%	1.3%
買い物	買い物	9.6%	75.1%	20.6%
友人・親族	親戚・友人	1.9%	5.5%	1.5%
観光	寺社参拝	19.4%	88.3%	24.2%
	花やしきへ	0.3%	6.3%	1.7%
	演劇・落語	10.7%	16.9%	4.6%
	散歩・散策	8.2%	74.9%	20.6%
	観光	23.2%		
	食事・喫茶	6.0%	78.4%	21.5%
その他	その他私用	2.2%	4.6%	1.3%
その他	その他	12.6%	7.9%	2.2%
無回答	無回答	4.4%		

表 9-4-C

上野	来訪者 主観的 判断	来訪者の行動 を基準	
	18年度	20年度	差異
観光	52.4%	79.1%	26.7%
仕事・出張	13.5%	3.1%	-10.4%
買い物	7.8%	13.2%	5.4%
友人・親族	7.7%	0.9%	-6.8%
その他	15.2%	2.5%	-12.7%
私用	0.0%	1.1%	1.1%
無回答	3.4%		-3.4%

表 9-4-D

浅草	来訪者 主観的 判断	来訪者の行動 を基準	
	18年度	20年度	差異
観光	52.4%	72.7%	20.3%
仕事・出張	13.5%	1.8%	-11.7%
買い物	7.8%	20.6%	12.8%
友人・親族	7.7%	1.5%	-6.2%
その他	15.2%	2.2%	-13.0%
私用	0.0%	3.5%	3.5%
無回答	3.4%		-3.4%

表 9-4-E

行動基準で来訪目的を 判定した場合、18年度と 20年度の比率の違い。 (上野・浅草平均)	
観光	23.5%
仕事・出張	-11.1%
買い物	9.1%
友人・親族	-6.5%
その他	-12.9%
私用	2.3%
無回答	-3.4%

9-5 . 消費金額を含む比較

調査手法は前回の調査同様にアンケート調査である。前回は平均消費金額を台東区全体の推計に使用したが、今回は上野地区と浅草地区を分割集計した。

なお、平均消費金額の前回との差異は次の通りである。

平均消費金額の差異(単位円)

	前回	今回		上野・浅草 平均との差異
		上野	浅草	
食事	2,404	1,557	2,270	491
買物	4,526	2,871	4,805	688
その他	1,282	895	1,918	-125

谷中地区、浅草橋地区のサンプル調査データが入手できなかったため、推計上、谷中地区は上野地区、浅草橋地区は浅草地区と同じ数値を使用した。

項目・地区別消費金額算出表

		平均消費額	観光客数	合計消費額
飲食	上野	1,557 X	1,634 万人	254.4 億円
	浅草	2,270 X	2,042 万人	463.5 億円
	谷中	1,557 X	138 万人	21.5 億円
	浅草橋	2,270 X	81 万人	18.4 億円
買物	上野	2,871 X	1,634 万人	469.2 億円
	浅草	4,805 X	2,042 万人	981.2 億円
	谷中	1,557 X	138 万人	21.5 億円
	浅草橋	2,270 X	81 万人	18.4 億円
その他	上野	895 X	1,634 万人	146.3 億円
	浅草	1,918 X	2,042 万人	391.7 億円
	谷中	895 X	138 万人	12.4 億円
	浅草橋	1,918 X	81 万人	15.5 億円
宿泊	全区	23,457 X	43 万人	100.9 億円
				2,914.9 億円

観光客総消費額推計

年間観光消費額	平成 16 年度	平成 18 年度	平成 20 年	差
観光のみ (狭義)	約 1,293 億円	約 1,640 億円		
観光と買い物 (広義)	約 2,000 億円	約 2,819 億円	約 2,914.9 億円	増加 約 95.9 億円

観光客数(宿泊者数を含む)及び消費額の推計(地区別) 単位:万人

	推計値	浅草地区	上野地区	谷中地区	浅草橋地区
観光客	約 3,934.4 万人	約 2,053 万人	約 1,645 万人	約 149 万人	約 92 万人
構成比		52.2%	41.8%	3.8%	2.2%
消費額	約 2,914.9 億円	約 1,885.7 億円	約 921.5 億円	約 55.4 億円	約 52.3 億円
構成比		64.7%	31.6%	1.9%	1.8%

本推計は、観光客及び宿泊客アンケート調査結果の訪問地の回答(重複を除く)を用いて算出を行った。

推計値の内訳は、小数点以下を四捨五入して算出しているため、合計額と合わないことがある。また、割合(%)についても同様に、合計が100%にならないことがある。宿泊者数約43万人は上記4地区に各11万人を均等配分した。